



10月号では、ユース研修会の様子をお届けいたしました。今号からは新企画！

ユース研修 OB/OGの今を探ってお届け致します。第一回目の今回は千葉県トップレフェリーの一人、松田卓磨さん取材します。競技規則の裏表紙にも載っている2級審判員の松田さんがユース研修に参加していた頃を思い出しながら取材に応じてくれました。

★ユース研修

OB/OGの今★



Q: 関東強化審判員との事ですが、読者の皆さんにどのようなカテゴリーなのか教えて下さい。またどのような試合を主に担当されますか。

現在は関東で3名いるG2というカテゴリーに所属しています。カテゴリーは1級審査受験者のG1からG8まであり、約900名いる関東の2級審判員から各都県から20人前後、合

わせて関東全体でも150人程度が強化指定されています。

試合は主に関東サッカー協会主催大会で主審を担当しています。具体的には関東リーグ、関東大学リーグなどです。副審ではJFLをはじめ、もちろん千葉県内で行われるリーグ戦等も担当します。

Q: 関東150人の中で3番手ですか！凄いですね。松田さんが参加していた頃のユース研修について教えてください。

2005年から高校の3年間参加しました。高校1年の6月に3級に昇級して、本格的に割当を受け始めた頃でした。当時はユース研修の創設期であり、現在と同じ夏に宿泊を伴う研修で担当の中間さんにお誘い頂いて参加しました。



Q: 研修での大失敗は？

U-15の高円宮杯を担当したのですが、交代要員がフィールドに入るのが早かったので「無許可侵入」で警告しました。(笑)。またキックオフの立ち位置が逆だった事を、そのときのインストラクターの方に指摘され「Jリーグの審判がやっていたので！」と返答してしまいました。若かったと思います(笑)。

Q: それは大失敗ですね(笑)その失敗を乗り越えての若い頃の武勇伝は？

武勇伝というと大層な話で、そんな話は持っていませんが、大学1、2年で参加した全日本少年サッカー大会は、良い経験であったと思います。2年目には決勝戦の主審を担当しました。自分は「緊張」という言葉を知らないのですが、テレビ中継もされ、観客も多い注目の試合を、20歳前後で落ち着いて担当出来たことは、どんな状況でも心が揺れないという、自分のパーソナリティーを作った1つの要素かと振り返っています。

Q: 競技規則の裏表紙に載っている、アレですね。

それがアレじゃないんですよ。あの写真は決勝の主審を務めた年の1大会前に、準決勝で第4の審判員を務めた時の写真なんです。多くの人はあの写真を見て「この人が主審」と思いますよね(笑)。

Q: そうなんですか(笑)その後はどのような形で今の立場に辿り着いたのですか？

今の8グループあるカテゴリーとシステムが違いますが、関東強化審判員にリストアップされ、関東協会主催の試合割当を頂く様になり、研修会にも参加させてもらうようになりました。言うまでもなく、ベースとなる千葉県の審判活動をしながらです。そんな中、これまでの全てが良い時間…ではなく、失敗を繰り返し、今のG2という立場になりました。

Q: 失敗という話がありますが、これまでに審判員を辞めたいと思ったことは？



頻繁にそんな気持ちになりますね。特に近年は。そんなとき、一緒に活動している仲間、審判界に限らず、支えて下さっている皆さんの存在、そして、私がこの世界に足を踏み入れたときの志を思い出すことが力となって、今でも続けられています。投げ出したらどんなに楽になるのだろうか。こんな考えはいつも頭の中にありますね。

Q:志とは？

今も同じ思いですが「将来は世界的に活躍する審判員になってやろう」というものです。だからこそ英語に力を入れている高校、大学に進学し、今は大学職員として留学生のサポートをして英語を日常的に使用する毎日です。

Q:千葉には現在3,500名を超えるユース審判員がいます。松田さんは目標の一人になるかと思います。メッセージをお願いします！また2019年の松田さんの目標を教えてください。

まずは、“松田って誰だ” “知らない” という方が殆どですよ。そんな知らない人からですが、「常にチャレンジすること」が大切です。あのときやっておけば、飛び込めば良かった、と思うのではなく、挑戦したうえで、ポジティブ、ネガティブだった点を振り返りましょう。

守りに入らず、ちょっとでも背伸びして、飛び込むことが成長に繋がると強く思っています。

2019年の目標は、選手の皆さんと一緒に、やっている本人はもちろんのこと、観ている皆さんにとっても、より楽しく、エキサイティングで、魅力的なサッカーの試合を創り上げることです。それを目指すことで、自身の立場も変わってくる、結果がついてくると信じています。

今や1級候補に近い松田さんですら「無許可侵入」で警告した過去があるんですね！

失敗は成功の源。ユースの内に素晴らしい経験をしたからこそ金色のワッペンがもう少しの所にあるのでしょうか。松田さんの活躍を期待しつつ、一人でも多くの若手審判員が本格的に活動してくださることを心待ちにしています。第二回は…あなたかも？ 知れませんが。

(※文中にあります無許可侵入が必ずしも、警告事項として間違えているわけではありません。)

ここからWebサイト限定！！

オフザピッチの話…。

Q. 今思うとどんな時代でしたか。

A. まだまだ、結果にコミットしていない時代でしたね。自分に甘過ぎました。

Q. ユース期に印象にある出来事や人は。

A. 審判活動は高校1年からしていましたが、もちろんプレーヤーとしても活動していました。高校3年生の冬、全国大会に出場出来たことは、良い日々だったなと思います。全国大会なので、担当頂いた審判員の皆さんは既に1級、もしくは2級トップクラスでしたが、現在、日本のトップレフェリーの方ばかりです。

真剣勝負、本当に紙一重の戦いで全国の頂点を目指す。このような経験を出来たことは、自分の財産だと思っています。

Q. 10年前の自分に一言！

A. 殻に籠るな！周りのこと、小さいことは気にせず、やりたいことにチャレンジしろ！

Q. 今の生活に役立っていること。

A. 日本各地に限らず、国外にも人との繋がりを持たせたことですね。審判活動でない時でも、その地に行くときは大変お世話になっています。

Q. もしもやり直せるならどこでどうやり直す？

A. 大学2年の夏から、在籍していた大学と繋がりのあった、カリフォルニア大学(UC)に1年間留学しましたね。大学の英語の先生も、将来を考えたなら行くべきだ、と勧めてくれたのですが、当時の自分は、審判活動が日本で1年間出来なくなるから…とプログラムに参加しませんでした。本当に視野が狭かったですね。今振り返れば、絶対に1年間UCで学ぶべきだったと非常に後悔しています。どれだけの素晴らしい日々が待っていたことでしょうか。

Q. 現在は育成勉強会という形で毎月ユース審判を対象とした研修会があり、夏のユース研修では1級をはじめとした上級の審判員から審判グッズの差し入れもあるようです。

A.当時は夏の年1回だけでしたし、非常に恵まれていますね。このような環境が当たり前だと思わず、毎回「参加している」ことに満足しないで、1回1回チャレンジし、何かを得て、自身の成長に繋げてほしいですね。その場に身を置いているだけでは、全く意味がありません。

ユース宿泊研修は来年夏頃、また毎月第3日曜日にはユース勉強会を開催しています。
お問い合わせはこちらまで。



育成部/U-18担当 右田智也(みぎた としや)

問い合わせ先:09036914134

Email:t.migita@ab.auone-net.jp

